科目名	社会福祉原論特講
科目責任者	大友　信勝
単位数他	2 単位　(30 時間)　選択　春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	貧困・格差が広がり、貧困の連鎖・重層化が進んでいる。社会福祉専門職の身分・待遇がゆれている。時代の転換期を迎え「社会福祉とは何か」、が揺らいでいる。先行研究を批判的に検討し、新たな研究動向に注目しながら、これからのあり方を問題提起できるように授業を進める。
到達目標	社会福祉原論領域の先行研究を批判的に検討し、その到達点を評価し、そのうえで、何が問題点と課題か。乗り越えるべき点はどこにあるのかを明らかにしていく。また、各自の研究テーマ、研究方法を設定できるようにするのが目標である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回： 院生の研究テーマ、研究関心にそって、博士論文作成に資する研究・調査方法をうちだしていく。 第 3 回：論文の独自性、開拓性を重視し、今、何故その研究テーマなのかが浮き上がるように検討する。 第 4 回：社会福祉学における創造的な研究とは何か。その視点と研究方法を追求する。 第 5 回：博士論文テーマ、研究領域、研究方法のアウトラインを決める。 第 6 回：博士論文テーマに関わる先行研究のリストアップ、その理由、根拠を確認。 第 7 回：博士論文と学会動向にみる研究の特徴や傾向、問題点と課題を考察。 第 8 回：代表的な先行研究を数点に絞り、その分析と評価を行う。 第 9 回：論文の研究・調査方法と仮説－研究の枠組み、方法、どのように研究するか。 第 10 回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価―研究課題にいかすべき点は何か。 第 11 回：社会福祉学と貧困研究―貧困の実態と政策動向 第 12 回：貧困研究の文献資料と研究方法―代表的な著作に何を選ぶか。その理由と根拠は。 第 13 回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価。 第 14 回：社会福祉原論と専門職アイデンティティ 第 15 回：博士論文の構成やデータ、活用すべき資料の整理と検討。 社会福祉原論特講は院生の研究テーマ、研究関心にそって、柔軟に対応する。博士論文作成につながる授業を展開する。

学修方法	講義を中心に行うが、適宜「討議」を組み合わせて行う。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表　５０％、論文の進行　５０％
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。
指定図書	『公的扶助の展開―公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』旬報社
参考書	授業中に随時連絡する
事前・ 事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を調べてくる。（４０分） 事後学修：講義内容について、振り帰り整理しておく。（４０分）
オフィスアワー	研究室（5703）にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。

科目名	社会福祉原論特講演習
科目責任者	大友　信勝
単位数他	1 単位　(30 時間)　選択　秋
科目の 位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	博士後期課程の社会福祉原論特講演習は、博士論文作成に向け、院生と研究協議しながら進める。特に博士論文のテーマや枠組み、研究方法の独自性、開拓性が十分であるかどうか。学術論文に取り組む社会科学的な視点や方法について議論しながら進める。
到達目標	博士論文についてイメージがわくように、十分な研究協議を重ね、独自性、創造性を工夫し、論文作成の準備に入る。特に、先行研究の業績調査、分析、評価を重視し、到達点と課題を明確に描き、開拓性を明確に打ち出し、自立した研究者への出発が目標である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 :　社会福祉原論をなぜ、「社会福祉と貧困」から切り込むのか 第 3 回 : 社会福祉原論は、社会的に最も困難な立場にある人々の人権・尊厳、生活と生命に関わる領域の研究である。社会福祉の歴史から、生存権や平等の理念が形成されるまでの試練や努力を学び、今日的課題と繋げて考察する。 第 4 回 : 博士論文の研究テーマ、研究（調査）方法、研究の枠組みを設定する。 第 5 回 : 博士論文の独自性、開拓性がどの点にあるのか。テーマや主要項目、研究方法とつき合わせて検討する 第 6 回 : 各自が先行研究の業績リストを作成し、レビューの分類・整理を行い、準備を整える。 第 7 回 : 先行研究の分析において、自らの言葉で評価、批判、課題提起を行う。 第 8 回 : 研究・調査方法を再度検討し、最終的に決定する。その上で、倫理審査を受け、調査やデータの作成に入る 第 9 回 : 論文に必要なデータ（実証）の作成、整理、確認を行う。 第 10 回 : 中間段階で、院生や、学内外の研究者から学会発表や何らかの研究発表の機会を作り、批判やコメントをいただく。その機会を活用し、問題意識や焦点の絞込みを行う。 第 11 回 : データ処理、解析の方法、比較研究、量的・質的研究方法を自分の論文と付き合わせる 第 12 回 : 草稿をまとめる作業に入る。論旨、枠組み、データのアウトラインを書きながら、不十分なところを早く手当てできるように準備する 第 13 回 : 研究テーマと目的が、論旨や枠組みと整合しているか。同じようなことが出てくる重複はないか。逆に、説得力を持たせる上で弱いところがないかを確認する 第 14 回 : 草稿の論旨と理論（仮説）、実証が整合しているか。最終的にチェックする 第 15 回 : 特講演習で草稿を研究発表する。批判や助言を謙虚に受け止め、提出論文にいかす 以上は、院生の研究テーマ、研究方法によって、差し替えや補足等が十分にありうる。院生と協議しながら、柔軟に個別性を生かして対応したい

学修方法	各自の研究発表や討議を中心とし、適宜、先行研究等のミニ講義を行う
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する。（100%）
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談、またはメール等でフィードバックする
指定図書	特に、指定しません
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。（40 分） 事後学修：授業内容について、振り返り整理しておくこと。（40 分）
オフィスアワー	研究室（5703）にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示します

科目名	ソーシャルワーク特講
科目責任者	大友　信勝
単位数他	2 単位　(30 時間)　選択　春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	貧困・格差が広がり、貧困の連鎖・重層化が進んでいる。社会福祉専門職の身分・待遇がゆれている。時代の転換期を迎え「社会福祉とは何か」、「ソーシャルワークのアイデンティティは何か」が揺らいでいる。先行研究を批判的に検討し、新たな研究動向に注目しながら、これからのあり方を問題提起できるように授業を進める。
到達目標	社会福祉・ソーシャルワーク領域の先行研究を批判的に検討し、その到達点を評価し、そのうえで、何が問題点と課題か。乗り越えるべき点はどこにあるのかを明らかにしていく。また、各自の研究テーマ、研究方法を設定できるようにするのが目標である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回： 院生の研究テーマ、研究関心にそって、博士論文作成に資する研究・調査方法をうちだしていく。 第 3 回：論文の独自性、開拓性を重視し、今、何故その研究テーマなのかが浮き上がるように検討する。 第 4 回：社会福祉学における創造的な研究とは何か。その視点と研究方法を追求する。 第 5 回：博士論文テーマ、研究領域、研究方法のアウトラインを決める。 第 6 回：博士論文テーマに関わる先行研究のリストアップ、その理由、根拠を確認。 第 7 回：博士論文と学会動向にみる研究の特徴や傾向、問題点と課題を考察。 第 8 回：代表的な先行研究を数点に絞り、その分析と評価を行う。 第 9 回：論文の研究・調査方法と仮説－研究の枠組み、方法、どのように研究するか。 第 10 回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価―研究課題にいかすべき点は何か。 第 11 回：社会福祉学と貧困研究―貧困の実態と政策動向 第 12 回：貧困研究の文献資料と研究方法―代表的な著作に何を選ぶか。その理由と根拠は。 第 13 回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価。 第 14 回：ソーシャルワークと専門職アイデンティティ 第 15 回：博士論文の構成やデータ、活用すべき資料の整理と検討。 ソーシャルワーク特講は院生の研究テーマ、研究関心にそって、柔軟に対応する。博士論文作成につながる授業を展開する。

学修方法	講義を中心に行うが、適宜「討議」を組み合わせて行う。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表　５０％、論文の進行　５０％
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。
指定図書	『公的扶助の展開―公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』旬報社
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を調べてくる。（４０分） 事後学修：講義内容について、振り帰り整理しておく。（４０分）
オフィスアワー	研究室（5703）にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。

科目名	ソーシャルワーク特講演習
科目責任者	大友　信勝
単位数他	1 単位　(30 時間)　選択　秋
科目の 位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	博士後期課程のソーシャルワーク特講演習は、博士論文作成に向け、院生と研究協議しながら進める。特に博士論文のテーマや枠組み、研究方法の独自性、開拓性が十分であるかどうか。学術論文に取り組む社会科学的な視点や方法について議論しながら進める。
到達目標	博士論文についてイメージがわくように、十分な研究協議を重ね、独自性、創造性を工夫し、論文作成の準備に入る。特に、先行研究の業績調査、分析、評価を重視し、到達点と課題を明確に描き、開拓性を明確に打ち出し、自立した研究者への出発が目標である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 :　ソーシャルワークをなぜ、「貧困ソーシャルワーク」から切り込むのか 第 3 回 : ソーシャルワークは、社会的に最も困難な立場にある人々の人権・尊厳、生活と生命に関わる研究である。ソーシャルワークの歴史から、エンパワーメント等を学ぶ 第 4 回 : 博士論文の研究テーマ、研究（調査）方法、研究の枠組みを設定する。 第 5 回 : 博士論文の独自性、開拓性がどの点にあるのか。テーマや主要項目、研究方法とつき合わせて検討する 第 6 回 : 各自が先行研究の業績リストを作成し、レビューの分類・整理を行い、準備を整える。 第 7 回 : 先行研究の分析において、自らの言葉で評価、批判、課題提起を行う。 第 8 回 : 研究・調査方法を再度検討し、最終的に決定する。その上で、倫理審査を受け、調査やデータの作成に入る 第 9 回 : 論文に必要なデータ（実証）の作成、整理、確認を行う。 第 10 回 : 中間段階で、院生や、学内外の研究者から学会発表や何らかの研究発表の機会を作り、批判やコメントをいただく。その機会を活用し、問題意識や焦点の絞込みを行う。 第 11 回 : データ処理、解析の方法、比較研究、量的・質的研究方法を自分の論文と付き合わせる 第 12 回 : 草稿をまとめる作業に入る。論旨、枠組み、データのアウトラインを書きながら、不十分なところを早く手当てできるように準備する 第 13 回 : 研究テーマと目的が、論旨や枠組みと整合しているか。同じようなことが出てくる重複はないか。逆に、説得力を持たせる上で弱いところがないかを確認する 第 14 回 : 草稿の論旨と理論（仮説）、実証が整合しているか。最終的にチェックする 第 15 回 : 特講演習で草稿を研究発表する。批判や助言を謙虚に受け止め、提出論文にいかす 以上は、院生の研究テーマ、研究方法によって、差し替えや補足等が十分にありうる。院生と協議しながら、柔軟に個別性を生かして対応したい

学修方法	各自の研究発表や討議を中心とし、適宜、先行研究等のミニ講義を行う
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する。（100%）
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談、またはメール等でフィードバックする
指定図書	特に、指定しません
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。（40 分） 事後学修：授業内容について、振り返り整理しておくこと。（40 分）
オフィスアワー	研究室（5703）にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示します

科目名	こども・家庭福祉特講
科目責任者	石川　瞭子
単位数他	2 単位(30 時間)　選択　春
科目の位置付	2. 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本講は院生の志向する研究テーマにそって思考をふかめ、多様な視点から検討をかさね、独自性のある博士論文を構築できるように指導を行う。そのためまだ手つかずの状態、あるいはまだ研究の積み上げが充分でない領域を発見し、先行研究を多角的に調査し、データーを収集し、他者と議論をかさね、博士研究として社会的意義があるテーマを発見する。 こども・家庭福祉領域はカバーしなくてはならない学問領域が広い。社会福祉学・精神保健学・教育学・心理学・社会学・保育学など学際的な領域であるため、研究は多角的・複眼的なとりくみが必要になる。まずは院生の関心ある領域を互いに議論しあうことから開始し、視野を広げ、研究テーマのしぼりこみを行うことができる。
到達目標	1. 独自性と先駆性のある研究領域を発見するために、まず現実から検討を開始し生活問題を発見し、その解決のために何が必要か議論をする。解決を志向するために多様な理論と方法論への接近がかかせないことを理解することができる。 2. 生活上の諸問題を解決するために、質の良い確かな情報が欠かせない。その情報に接近するための方策を検討し、量的研究・質的研究・文献研究等を吟味することができる。 3. 研究調査から得られたデーターは、複数の理論を用いて検討し、生活困難の発生機序を突き止め、解決の方向性を志向することができる。 4. 解決の方向性は、汎用性・臨床性があるかを検討し、それらの有効性を高めるために現場での実践が欠かせない。現場にでむき汎用性と臨床性を検討することができる。 5. 吟味を経て、社会貢献できるツールを提案することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　担当教員・石川瞭子 多様な関心ごとに対して院生同志のディスカッションから今後を展望したい。各人が異なる関心を抱いて博士課程に入学し、また研究の動機も異なることから、互いに刺激しあい成長するため機会を提供する。研究テーマは多様であるが、他領域を含むため逆に相通じるものもある。それらを分かちあい、研究を深化させ、文献や海外の資料などからひとりひとりの展望をひろげたい。こども・家庭福祉領域にかぎらず人間社会の多様性と混迷をめぐって、改善策や解決方法の提案を教員とともに検討し、博士論文として提案を行い、もって社会貢献をしたい。進行は以下であるが各人のプロセスを大事にしたい。 ①　研究方法の展望　どのような内容でどのような提案を行うのか研究のアウトラインの検討 ②　理論の展望　中心に据える理論は何か、中心から派生する事象を読み解く理論は何か ③　支援方法の検討　現状を改善するための方法論　支援方法　具体的提案に結びつく方法論 ④　現場での実践　実践方法の検討　具体的成果物の試案(アセスメント等の試行) ⑤　支援方法の効果測定等　支援方法の妥当性や汎用性・臨床性の検証を行う ⑥　支援方法の修正　現場からのフィードバックを取り入れてより効果的な支援方法を検討 ⑦　提案　具体的な方法の提示　図式化・可視化した提案物 ⑧　禁忌の検討　倫理的配慮の再確認 ⑨　博士論文としての体裁等　要旨のすり合わせ・整合性の検討等 特講は博士課程に在学する院生の関心に沿って進行されるため、実際は異なった内容になる。 将来的には、院生が独立した研究者になり社会に貢献する意義を追求して欲しい。

学修方法	ノートを持ち歩き、時事問題を書きとめる習慣を身に着ける。そして院生同志の討論に参加し、関連学会等で積極的に発表することを促す。時代の要請を反映させた提案物を作成するためのあらゆる方法の検討を教師と院生との間で議論し、独自の理論を構築することを学修する。
評価方法	1. 評価方法は年 2 回の研究計画検討会の発表 40%、博士論文の進行に対する主体性 40% 2. 関連学会のプレゼンテーションや講演会に積極的に参加し、発信をする 20%。
課題に対するフィードバック	1. 研究室での討議や博士論文進行検討会の振り返りで、その都度フィードバックを行う。 2. 論文投稿時や、関連学会のプレゼンテーションの発表で適宜フィードバックを行う。
指定図書	各自研究する領域が異なるため指定図書はない。
参考書	上に同じ。各自専門領域が異なるため指定する参考書はない。
事前・事後学修	1. 関係する事象や資料集め、および関係する学会等の動きや研究の動きに敏感になって、資料を集めておくこと。これを事前学習とする。 2. 常に関心をよせて独自性のある研究領域の開発と深化に取り組むこと。それらを事後学習とする。
オフィスアワー	ryoko-i@seirei.ac.jp　可能な限り連絡を密にして研究体制を維持してください。研究室は 5 号館 7 階の 5709 研究室です。前もって他の研究指導予定がないかメールで確認してください。合同で議論することもあります。相談事は歓迎します。所属は社会福祉学研究科。

科目名	子ども家庭福祉特講
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	2 単位　(30 時間)　選択　春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	わが国の子ども虐待への対策は、1990 年代ごろより開始され、2000 年に「児童虐待の防止等に関する法律」が制定された後も多くの通知やガイドラインが出され、児童福祉法も数回にわたって改正された。しかし、児童相談所における子ども虐待相談件数の増加は止まることがない。子育てに孤立感を抱く保護者やネグレクト状態の家庭への支援が進められているにもかかわらず、状況の改善は困難を極めている。子ども虐待防止として多くの対策が次々と打ち出されていく中でソーシャルワークと臨床心理学の観点から、あらためて現状への検証を加えていく。そして、ソーシャルワークの役割と機能を明確にしながら、これからの子ども虐待防止のあり方について問題提起できるようにする。
到達目標	子ども虐待の問題を中心に、制度・実践の両面からその対応のあり方について考察することにより、以下の３つの目標を目指す。 １　現代の子どもと家庭が置かれている環境および課題を理解する。 ２　子どもと家庭に関わる専門性の高いソーシャルワーカーとしての実践力を培う。 ３　各自の研究テーマと研究方法を設定できるようにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 : 院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション 第 3 回 : 院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション 第 4 回 : 院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション 第 5 回 : 研究テーマ、研究領域、研究方法のアウトライン 第 6 回 : 研究テーマに関わる先行研究のリストアップ 第 7 回 : 研究テーマに関わる学会動向における特徴や傾向、問題点と課題 第 8 回 : 代表的な先行研究の分析と評価 第 9 回 : 論文の主要概念および研究枠組みの検討 第 10 回 : 既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価 第 11 回 : 子ども家庭福祉における研究テーマに関わる実態と政策動向 第 12 回 : 代表的な著作の選択と根拠 第 13 回 : 社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価 第 14 回 : 子ども家庭ソーシャルワークの課題 第 15 回 : 博士論文の構成、活用すべき資料の整理と検討 子ども家庭福祉特講は、院生の研究テーマ、関心のある分野・領域に関連した事柄を取り上げ進める。前半の第１回～４回は、関連分野の最新の論文を抄読し，研究課題とその解決理論と方法についてディスカッションを行う。

学修方法	一方的な講義のみならず、適宜各自がまとめたレポートを用いながらディスカッションの時間を多く持ち、アクティブラーニングの手法を導入する。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表　50%、論文の進行 50%
課題に対するフィードバック	レポート内容の評価を提出授業内に行う。さらに、必要に応じ面談やメール等でのフィードバックを行う。
指定図書	才村　純『子ども虐待ソーシャルワーク論』有斐閣
参考書	藤岡　孝志　『これからの子ども家庭ソーシャルワーカー　ースペシャリスト養成の実践ー』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：教科書の指示した部分を読み把握する。(40 分) 事後学修：講義内容について、振り返り整理しておくこと。(40 分)
オフィスアワー	研究室（2610）にて、自由に研究相談に応じます。 時間等については、初回授業で提示する。

科目名	こども・家庭福祉特講演習
科目責任者	石川　瞭子
単位数他	1 単位(30 時間)　選択　秋セメスター
科目の 位置付	4. 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	博士後期課程の児童・家庭福祉特講演習は、独自性や開拓性や先駆性・臨床性が求められる。研究論文の制作にむけて留意すべき点を中心に、院生とともに議論を重ねていく。そのため社会福祉学・精神保健学・教育学・社会学・心理学・保育学等の学際的な先行研究のレビューを充実させ、独自の切り口から真実を追求し、社会問題の解消ないし改善を目指した提案を行っていく。その際、わが国でなぜ生活や家族の在り方等の研究が重要視されてこなかったのかの歴史的背景をふりかえりながら、文献研究をしっかり行い、また事例研究を行うかたわら現場の現実と研究のギャップを吟味し、今後を展望する。量的調査ないし質的調査を通じてえた知見を、院生の独自な視点から研究を展開し、論文としてまとめる力を修得する。
到達目標	1. 教員と院生と議論を重ね、可能な限り臨床現場にはいりこみ、提案内容の独自性・先駆性・開拓性・臨床性を確認し、研究のアウトラインを次第に具体的なデザインに発展させることができる。 2. 充分な先行研究の吟味、充分な調査の準備、充分な研究の柱となる理論と資料等の準備をして論文を書き始める用意をする。自立した研究者としての能力を開発することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 博士論文に求められる点は、第一に独自性があり未開拓な領域の研究であるかどうかである。そのため充分な先行研究のレビューが欠かせない。未開拓の独自性のある領域と確認がとれたら、具体的な調査に入り真実を確かめ、調査から浮かび上がる知見をもとに解決策や改善方法を提案する。その際、汎用性や臨床応用性が問われるので、臨床現場で実践してみる必要が出てくる。提案物は修正がくわえられ博士論文の一部を構成する。進行は以下のプロセスを再確認されたい。なお研究テーマにより進行は異なる点に留意されたい。 (1)何を研究テーマとし、どの内容を研究の対象とし、どの程度深化させるか、どの域までを研究のテーマとして押さえるか、を検討する。研究のアウトラインを検討する (2)研究対象は独自性があり先駆的であるかの調査を行う。先行研究のレビュー等、文献研究はしっかりと行う。　研究のより具体的デザインを設計する。章を立てる。 (3)研究方法を決める　量的研究か質的研究か。調査の目的は何かを検討する。 既に決めている者も再度研究方法の妥当性を検討する (4)データー等の調査が必要な研究の場合、本学の倫理委員会に審査を依頼する。 (5)データー収集後のデーター処理　あるいはエスノグラフィ等の方法から得た情報の処理 データーの利用上の倫理や内容や範囲の妥当性等の検討 (6)調査研究を考察し、他の院生と指導教員と議論し、視点を拡大する 多様な視点、多様な価値観や多様な意義をその研究から引き出す社会性を引き出す (7)提案する内容を裏付け、形つける理論・概念を研究し充分に理解し、関連する方法論等を詳しく調べ、提案内容に即して応用し、理論化ないし概念化・図表化を図る。 (9) 提案する内容の禁忌を具体的に検討する。 (10)研究の全体の理論の整合性を高める　要旨と論文の整合性を確認する. 上記は一例で院生の研究テーマによっては必要となる項目は増える可能性がある。 以上を教員と相談しながら、煮詰めていく。

学修方法	可能な限り図書館や院生研究室を利用して、土曜日は他の院生と議論する。教員との対話や関連文献の読破と議論が学修の中心となる。時事問題の分析と考察を日ごろから周囲の者と議論し、関連学会等で発表し、投稿論文としてまとめる作業を学修方法とする。
評価方法	1. 独立した研究者として自覚をもち研究しているかで評価する 80%。 2. 関連学会等のプレゼンテーション等に積極的に参加しリーダーシップを発揮するが 20%。
課題に対するフィードバック	1. 研究計画検討会等で各教員から寄せられた意見を院生とともにディスカッションする。 2. 関連学会等の発表、投稿論文でそのつどアドバイスとフィードバックを行う。
指定図書	特になし。院生の研究領域で検討する。
参考書	特になし。研究内容で検討する
事前・事後学修	1.　時事問題に関心をよせ分析し独自の判断を養う。事前学習とする。 2.　社会事情の変化を分析し改善に反映させるための方法を検討することを事後学習とする。
オフィスアワー	ryoko-i@seirei.ac.jp が連絡先。研究室は 5 号館 7 階の 5709。事前に予定を確認の上で来室してください。相談は歓迎します。所属は社会福祉学研究科

科目名	子ども家庭福祉特講演習
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	1 単位　(30 時間)　選択　秋
科目の 位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	本講義では、博士論文作成に向け、院生とディスカッションしながら進める。特に、博士論文のテーマに関する主要概念や研究枠組みの検討を行い、研究方法の独自性や先見性を問いながら進める。具体的には、文献や先行研究を調べ、まとめ、発表、議論を行い、これらを通して知識を深めていく。
到達目標	１．子ども家庭福祉学における高度な専門性を探求する。 ２．研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション、関心のある研究テーマとディスカッション 第 2 回 : 関心のあるテーマに関する文献の検討 第 3 回 : 関心のあるテーマに関する先行研究の検討 第 4 回 : 研究目的の明確化 第 5 回 : テーマに関する主要概念の検討 第 6 回 : テーマに関する主要概念の検討 第 7 回 : テーマに関する主要概念の検討 第 8 回 : テーマに関する研究枠組みの検討 第 9 回 : テーマに関する研究枠組みの検討 第 10 回 : テーマに関する研究方法の検討 第 11 回 : テーマに関する研究方法の検討 第 12 回 : テーマに関する研究計画書の検討 第 13 回 : テーマに関する研究計画書の検討 第 14 回 : 倫理申請書の作成① 第 15 回 : 倫理申請書の作成②

学修方法	各自の研究発表およびディスカッションを中心とし、適宜、先行研究等のミニ講義を行う。
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する。（100%）
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談、またはメール等でフィードバックする
指定図書	特に、指定なし
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。（40 分） 事後学修：授業内容について、振り返り整理しておくこと。（40 分）
オフィスアワー	研究室（2610）にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示します

科目名	高齢者・障害者福祉特講
科目責任者	古川　和稔
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本特講は、高齢者福祉の課題と社会的役割について、高齢者(障害高齢者含む)の自立を支える社会的支援、および家族の役割と機能について、基本的な知識を修得し、理解を深める。さらに、日本の高齢者福祉の変遷を学び、今後の対応について考察する。また、世界的に高齢化が進む現状の理解と、諸外国の対応を考究する。
到達目標	1. 日本社会の人口動態の変化に伴う高齢者福祉ニーズを理解する。 2. 超高齢社会における高齢者の扶養について理解する。 3. 老親扶養の家族と公私の役割機能に関する問題点と課題について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 高齢者・障害者福祉の課題 第 2 回： 高齢者福祉の起源と変遷 第 3 回： 高齢者福祉の社会的役割 第 4 回： 現代日本社会における、高齢者(障害高齢者含む)福祉のニーズ 第 5 回： 現代日本社会における、高齢者福祉の機能 第 6 回： 介護保険の発足とその仕組み 第 7 回： 介護保険の役割と機能 第 8 回： 介護保険運用の実態と現在の課題 第 9 回： 日本の高齢者福祉問題の諸相 第 10 回： 超高齢社会日本の今後の課題 第 11 回： 欧米先進諸国の高齢者福 第 12 回： 欧米福祉国家の高齢者福祉の類型 第 13 回： アジア諸国の高齢者福祉と課題 第 14 回： 介護従事者と外国人労働の課題 第 15 回：高齢者・障害者福祉の課題解決の方策

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特講演習
科目責任者	古川　和稔
単位数他	1 単位（30 時間）　選択　秋
科目の 位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	当演習では、前期に修得した基本的な知見を基に、多くの文献・資料を読みこなし、さらなる考察と理解を深めることを目指す。履修生各自の研究課題に即したアプローチにより、毎週の発表、質疑応答、議論を通し、課題の理解と考察をはかる。それにより、各自の研究課題の追及、および課題の整理を図る。
到達目標	1.　各自の研究課題を明確化する。 2.　それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3.　収集した知見を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション、今学期の達成目標を定める。 第 2 回 :　履修生の問題関心に即し、研究テーマを設定する。 第 3 回 : 各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。 第 4～13 回 : 検索した文献・資料に基づき、毎週文献を精読し、輪番で発表を行い、質疑応答を重ねる。 第 14～15 回 : 今期セメスターに設定した研究課題をまとめ、各自が今学期の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉工学特講
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　春
科目の位置付	DP(2)．高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	社会福祉学という専門分野に、福祉工学の視点を併せ持った指導者レベルの発想能力と人に伝える表現能力を培う。
到達目標	社会と人の現象を考察するにあたり、自然科学である医学と、自然・人文・社会科学である福祉工学の視点を盛り込んだ切り口をもって考察できるようになることを目指す。併せて、生命、諸産業等と融合した形で現在の社会と未来の社会を描き得るようになることを目指す。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：導入 第 2 回：博士論文を視野に入れた社会学的問題点を提起する―問題点の分析。連鎖的（従属的）か並列的(複合的）か等。 第 3 回：原因を考察する―問題となった原因が明らかか不明か、調査と解決方向のストーリーを描けるか。 第 4 回：解決する方向と目標値を仮設定する―手法は確かか、ある程度進めてから定めるか。 第 5 回：調査する方向を設定する－因果関係を考察し得る方法か。 第 6 回：関連する先行研究を複数件調査する－因果関係、ストーリー、結論等の考察。 第 7 回：上記文献で成した研究方法について考察する(1)－経緯と結論の表現の明確さ。 第 8 回：上記文献で成した研究方法について考察する(2)－医学と福祉工学による視点の導入。 第 9 回：上記文献で成した研究方法について考察する(3)－先行研究の視点と、医学・福祉工学による視点と比較検討共通点と相違点を抽出する。 第 10 回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く(1)－概略。 第 11 回：調査方法の概略の考案し、参考の先行研究を選定する。 第 12 回：先行研究を評価および批評する－従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。 第 13 回：本研究の調査方法の概略の考案と先行研究との比較－従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。 第 14 回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く(2)－原因、方法、対策の主力の置き場。 第 15 回：博士論文の題目と研究のストーリーを描く(3)－結論の具体的予測とストーリーの表現方法。

学修方法	講義と討議。
評価方法	オリジナリティーの度合いと表現の明確さの度合い。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、メール、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	事前学修：シラバスの流れに沿った調査、考案、（４０分） 事後学修：講義の復習。（４０分）。日常的に身辺の道具や機械に関心を持つ。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	福祉工学特講演習
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	1 単位（30 時間）　選択　秋
科目の 位置付	DP(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 DP(5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	社会福祉学という専門分野に、福祉工学の視点を併せ持った指導者レベルの発想能力と人に伝える表現能力を培う。
到達目標	博士論文のストーリーを描くという自ら問題意識の高潮時に、従来型の研究視点を引継ぎ、か福祉工学の視点を盛り込み新たな切り口を開拓するという姿勢を作ることを目指す。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：導入 第 2 回：博士論文の題目と研究のストーリーを描くー社会における個と医学福祉工学の視点による生命の尊厳。社会における独創性。社会的整合性。目標値(目標とする度合い)。 第 3 回：博士論文の研究計画を具体化するー研究方法における社会福祉学的視点と医学福祉工学の視点。準備（倫理的プロセス、調査・実験の時期と対象、方法等） 第 4 回：先行研究を評価および批評する(1)－問題点、方法、結果にいたる各内容の因果関係とストーリー性。 第 5 回:先行研究を評価および批評する(2)－従来の社会福祉学型視点と医学･福祉工学の視点。該当著者の視点と学生の新たな視点。 第 6 回：調査・研究を実施し記録する(1)－データの質と量、その信憑性の確認。 第 7 回：調査・研究を実施し記録する(2)－提起した問題点に答えうるか。 第 8 回：調査・研究を実施し記録する(3)－データの公開範囲、プライバシー保護、独創性の確認。 第 9 回：調査・研究を実施し記録する(4)－新たな結論を導きうるか。。 第 10 回：博士論文の草稿作成と不備の有無。 第 11 回：草稿のストーリーを確認する－問題点に応えているか。結論の質。 第 12 回：表現方法を作る(1)－従来の社会福祉学型視点と医学・福祉工学の視点。 第 13 回：表現方法を作る(2)－文、文章、模式図、表等の使用方法。 第 14 回：総合的に確認する。 第 15 回：研究発表する。審査員の指摘を盛り込んで提出論文を作成する。

学修方法	発表と討議を主とする。
評価方法	オリジナリティーの度合いと表現の明確さの度合い。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、メール、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	事前学修：シラバスの流れに沿った調査、考案、（４０分） 事後学修：講義の復習。（４０分）。日常的に身辺の道具や機械に関心を持つ。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	社会福祉学特別研究
研究指導教員	大友　信勝、大川井　宏明、石川　瞭子、古川　和稔、藤田　美枝子 （研究指導教員は領域および課題により決まる）
研究指導補助員	太田　雅子、佐藤　順子、野田　由佳里
単位数他	6 単位（180 時間）　選択　通年
科目の 位置付	4. 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各院生は特定の研究課題を選定し、研究計画書の作成、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する。その一連の過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮については第 3 者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞

＜授業内容・テーマ等＞	＜評価方法＞
1 年次春セメスター：保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講、前期課程開講の社会調査特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
1 年次秋セメスター：　研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
2 次春セメスター：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）
2 次秋セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
3 年次春セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	データ分析の論理性・技法の適切性（100%）
3 年次秋セメスター：第 3 者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度（70%）第 3 者の評価による修正の適切性（30%）

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等でフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した授業内容に沿った該当箇所の学修（60 分） 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく（60 分）
オフィスアワー	初回授業時に提示